

【別紙様式3】

再評価実施事業調査書

番号	2	事業名	道路事業		路線又は箇所名等		主要地方道成田小見川鹿島港線		
事業所管課		道路整備課		事業主体			千葉県		
事業化年度	平成7年度	用地着手年度	平成8年度	工事着手年度 工事終了(認可)年度	平成10年度 令和10年度	再評価の理由	再評価		
費用便益比 B/C	3.4 (27.0)	総費用	87億円 (11億円)	総便益	297億円 (297億円)	基準年	令和6年度	供用開始 年度	令和11年度

※上段：全体事業 下段（ ）：残事業

【事業概要】

本路線沿線には、空港貨物等を取り扱う物流企業が立地しており、空港周辺の工業団地とのアクセス道路として機能している。また、成田市場の移転による交通需要の増加や現在整備が進められている圏央道（大栄-横芝間 R8 年度開通見込み※）等、将来の交通需要に対応していくため4車線化整備を行うものである。

※大栄 JCT～国道 296 号 IC（仮称）間は、1 年程度前倒しでの開通を目指す

- ・ 総事業費：57 億円
- ・ 事業延長：L=4.26km
- ・ 事業期間：平成 7 年度～令和 10 年度

【事業の進捗状況】（令和 6 年度末見込み）

	全体計画(億円)	投資事業費(億円)	残事業費(億円)	進捗率(%)
全体	57	49	8	86

【社会経済情勢等】

- ・ 本路線沿線には、空港貨物等を取り扱う物流企業が立地しており、空港周辺の工業団地とのアクセス道路として機能している。また、成田市場の移転による交通需要の増加や現在整備が進められている圏央道（大栄-横芝間 R8 年度開通見込み※）等、将来の交通需要に対応していくため4車線化整備を行うものである。
- ・ 成田空港では更なる機能強化に向けた計画が進められており、本路線の交通の円滑化に対する要請は今後より一層高まっていくものと考えられる。
- ・ 成田小見川鹿島港線の事業区間では、（仮称）新田入口交差点、多良貝交差点及び成田市取香周辺で日中を通して旅行速度が 20km/h 以下となるなど、混雑が発生。
- ・ 事業区間の平成 29 年～令和 3 年の 5 年間の交通事故は年平均で 10 件発生。
- ・ 追突事故による死傷事故率は 25.8 件/億台キロであり、県平均（主要地方道）の 15.2 件/億台キロを上回っている。
- ・ 渋滞が発生要因の一つである追突事故の割合が 7 割以上を占めている。@

【対応方針（案）】

継 続

事業全体の費用便益比(B/C)が 3.4（残事業 27.0）であり、事業の投資効果が見込まれる。

整備効果として、4 車線化による走行時間短縮、交通の円滑化による交通事故の減少、緊急輸送道路の機能強化及び救急医療機関への救急搬送時間短縮が期待される。

事業完了目標を設定し、着実に事業を推進していることから、事業を継続し効果の早期発現を目指す。

【別紙様式 4】

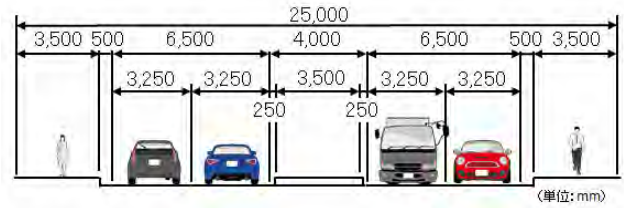
事業概要図

番号	2	事業名	道路事業	路線又は箇所名等	主要地方道成田小見川鹿島港線
----	---	-----	------	----------	----------------

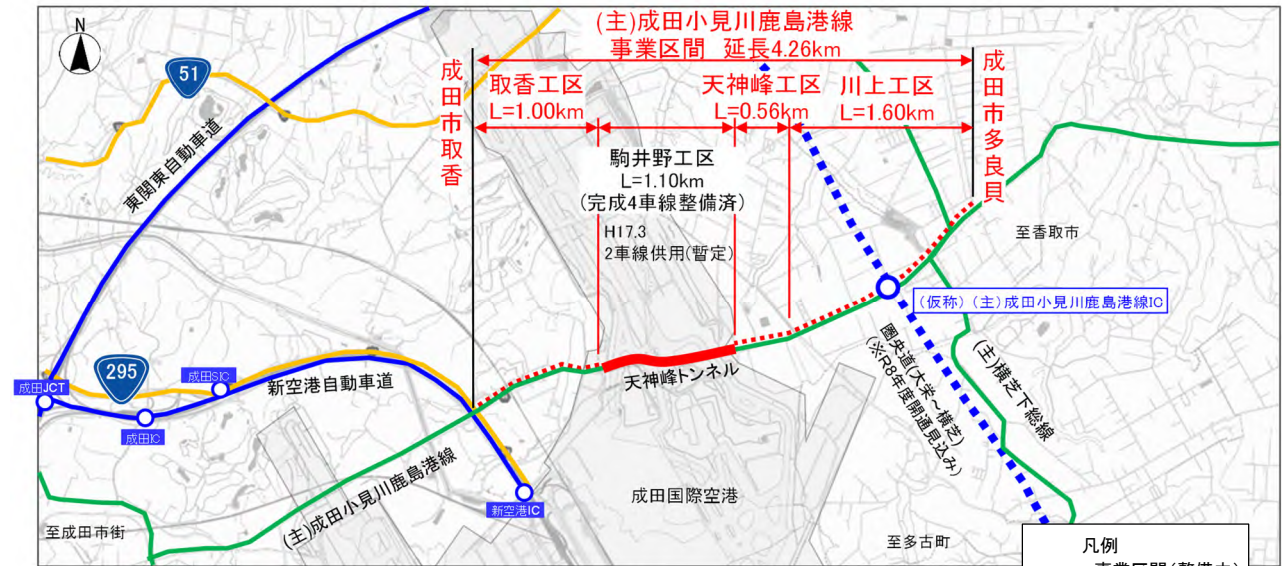
位置図



標準横断面図



平面図



※大栄JCT～国道296号IC(仮称)間は、1年程度前倒しでの開通を目指す

- 凡例
- 事業区間(整備中)
 - 事業区間(整備済)
 - 高規格道路
 - 事業中
 - 国道
 - 主要地方道

【別紙様式 5】

再評価事業に関する調書

番 号	2	事 業 名	道路事業		路線又は箇所名等	主要地方道成田小見川鹿島港線
事業化年度	平成 7 年度	用地着手年度	平成 8 年度	工事着手年度	平成 10 年度	
【再評価（R2 年度）の概要】						
事前評価実施年度 （基準年）	令和 2 年度	供用開始年度	令和 6 年度	対応方針	継続	
B / C	4.0 (24.1)	総費用	74 億円 (12 億円)	総便益	292 億円 (292 億円)	
（※上段：全体事業 下段（ ）：残事業）						
事前評価時の委員会の意見及び当時の状況 ・継続することが妥当である。						
再評価時の進捗状況及び再評価時想定 of 5 年後の進捗状況						
	計 画	進捗状況	5 年後の想定進捗状況			
全体事業費	53.8 億円	42.4 億円 (79%)	53.8 億円 (100%)			
用地取得面積	46,995m ²	42,297m ² (90%)	46,995m ² (100%)			
供用面積（延長）	0m	0m (0%)	4,260m (100%)			
【再々評価（R6 年度）の概要】						
再評価実施年度 （基準年）	令和 6 年度	供用開始年度	令和 11 年度	対応方針	継続	
B / C	3.4 (27.0)	総費用	87 億円 (11 億円)	総便益	297 億円 (297 億円)	
（※上段：全体事業 下段（ ）：残事業）						
現在の進捗状況						
	計 画	進捗状況 （令和 6 年度末）				
全体事業費	57 億円	49 億円 (86%)				
用地取得面積	46,995m ²	44,251m ² (94%)				
供用面積（延長）	4,260m	0m (0%)				
再評価後の経過及び処理状況	<ul style="list-style-type: none"> ・令和 2 年度 再評価（継続が妥当である） ・工事、用地交渉を継続実施 					